

2015 Spring Vol.4

WOOD

くらしを 楽しむ つくり方

ISSUE 31 ARCHITECTS



マツザワ設計

埼玉県さいたま市浦和区元町2-38-2 パークプラザ元町204
048-885-8241
<http://www.aa-mat.net>

松澤 静男 SHIZUO MATSUZAWA MATERIAL

Fさんが新築するにあたって思い描いていたのは、銀山温泉で見た木造3階建ての日本旅館の雰囲気。設計家を探していたFさんは、大きな丸太を使い、無垢の木を生かしたマツザワ設計が手がけた家を見て、ピンときたのだそう。寝室として3階に設けられた和室は、入口にたたきのスペースが設けられ、木と畳の香りが漂う、まさに温泉旅館の一室そのもの。天井をあえて低くしつらえたので落ち着いた空間に仕上がった。

2階にはリビングダイニング、1階にはギャラリーとしても活用できる多目

的スペースが配されている。ギャラリーとリビングを貫いているのが、大きな栗の丸太。この家のシンボリック的存在だ。敷地は緑豊かな参道に面しており、参道から1階ギャラリーに入出りが可能。個展や演奏会を開きたいという計画は、間もなく実現するに違いない。重厚感のある一枚板の玄関ドア。陰影のある光をもたらす窓の障子。随所に配された木の表情が室内にやすらぎを生む。シンプルに仕上げた木の家に、奥様がアレンジしたモザイクタイルの色がじつによく映える。



松澤さんがつくる家は、木をふんだんに使い、木肌を生かした家。「できるだけ本物を使いたい」というのが松澤さんの思いだが、まともに仕入れれば高くつく。予算のなかでいかに適材適所のいい材を揃えるかが腕の見せどころだ。構造材は主にスギ、床材には広葉樹のクルミを選択、水廻りにはヒノキを使用。樹種による木肌の表情の違いも考慮する。樹種だけではなく、建具のようにデリケートな部分にはくいの少ない良質の赤みを調達しなければならぬ。

材が揃えば次は職人の技がものをいう。無垢の木材から作り上げるには手間がかかるがこうした仕事は職人冥利につぎるのだそう。松澤さんが積み重ね

てきた職人ネットワークが機能することで本物の木の家が完成する。自然素材で作った家は心地よいことはいうまでもないが、それなりの欠点もある。気温や湿度の変化で木がそったり、隙間ができたり。そんな木の特性をおおらかに受け止めてくれる施主の存在も欠かせない。「集成材や合板といった既製品を使えば不具合もなくそのこともない、工期も短縮できますが、接着剤を使用した材料は健康にはマイナスですし、時がたてば確実に老朽化していきます。手間はかかりますが無垢の木で作った家は老朽化しない。それどころか時とともに味わいが増し、より強くなっていくんです」





中村 雅子

MASAKO NAKAMURA

株式会社 タジェール

東京都杉並区大宮2-13-10
03-5305-2773
<http://homepage3.nifty.com/taller>

長野県蓼科に、将来永住することも視野に入れ、ご夫婦と3匹の犬たちのための別荘を建てた。奥様がブリーダーの仕事をしていることもあって、犬と暮らす動線を中心に設計、犬部屋や犬専用のテラスが配置されている。玄関を入った先に見える風景、ダイニングから見える風景を演出するために、その視線の先にグリーンが見えるように植栽もデザインした。壁と天井には

地元のカラマツをふんだんに使用し、木の香りあふれる開放感いっぱいの週末住宅になった。施主のAさんは別荘建築計画に長い時間をかけ、設計の依頼先も慎重に検討を重ねたそう。決め手となったのは、中村さんが最初に設計した軽井沢の別荘だ。数々のインテリアデザインを手がけてきた中村さんは、素材や色などのバランスを整える感覚が秀逸。壁と天井をすべて木目にすることで避けられない堅さを、

ドレープをたっぷりとしたカーテンでやわらげることに成功した。窓から入ってくる心地よい風がカーテンをふわりとゆらす。また、デザインに造詣の深い施主が選んだ床のラグやクッションの絶妙な色づかいが、室内の色彩のバランスを整えている。

「建築物の外観は社会の財産」と考える

天然木の「自然さ」とテクノロジーの「機能」を両立。「環境」「安全」「文化」この3つのバランス・接点に我々の製品があります。

商業施設のデザインの仕事も手がける中村さんだが、「住宅は住む人個人の好みやこだわりがあるので、本当に大変ですが、家には人の暮らしを変える力がある。それが面白い」。花をいけたこともなかった人が、ふっと野の花を飾ってみたくなる、そんな生活シーンを創造する力が、家にはあるのだという。

CHANNEL ORIGINAL

チャネルオリジナル株式会社

〒231-0015 神奈川県横浜市中区尾上町4-54 kannai ex 9F
tel. 045-662-0088 fax. 045-662-6001
url <http://www.channel-o.co.jp/>





田邊 恵一

株式会社田辺計画工房
03-5768-2878
www.td-atelier.co.jp

木の浴槽とつきあう

ヒノキやヒバの浴槽は香りを楽しむことができ、どこか懐かしく、大変心地よい。ただ、木の浴槽を計画すると、その都度課題になるのがメンテの手間であった。常用しない別荘などだと乾燥が進みすぎ、割れに気をつける事が必要となるので、洗面器一杯の水を浴槽に置いておく事が必要になり、毎日使う浴槽の場合は毎回水を抜き、さっと洗って適度に乾燥させることが必要となる。そのため、私は一般浴槽でも天井などをヒノキやヒバ、サワラなどで仕上げ、脱衣空間と一体空間として作る事で、何気なく木の心地よさを水廻り空間で楽しむように実践してきた。ただ今では換気だけでなく「浴室乾燥機」を使うことで、木の浴槽ともうまくつきあえるようになったと思う。木の浴槽はいかなる空間にもマッチし、少しリッチなバスタイムが楽しめるのではないだろうか。



檜の木風呂 檜浴槽・浴室総合プランナー
檜 創建 株式会社
www.hinokisoken.jp

ITEM & IDEA



無垢一枚板によるダイニングテーブル

銘木と呼ばれるような板は大変高価ですが、少し欠点のある板を利用すると金額は1/10以下になることも多いです。それらをうまく加工し、空間に馴染ませてあげると、迫力ある無垢一枚板であっても日常的に使うテーブルに利用でき、家族とともに経年変化を楽しむことができます。



表情豊かな玄関扉

住宅の内部空間を玄関扉に凝縮し、デザインするよう心がけている。写真はインテリアにあわせ、材料をタモ無垢板とした玄関扉である。幅と厚みを2種類用意し、交互に組み合わせることで陰影が生まれ、奥行きを感じられる繊細なデザインとなっている。



フローリングと同 材・同仕上の家具

ゴム集成材による家具。一事の少ない樹種だからこ意味が大きい(製作:ヤマシ木目を残しながら白系統のム特有の優しい表情を引き

一般的に家具で利用されるそ、オーダーメイドで作るタ・プランニング・オフィス)。自然塗装を施すことで、ゴ立たせています。



宙を飛ぶ鴨居

リビング横の畳コーナーの障子は来客時用であり、日常は開け放して使用するため、鴨居は存在感の少ないすっきりとしたものにしたいと考えました。3.6mのスパンに鉄製アングルを飛ばし、その下に木製鴨居を取り付けています。鉄と木の融合により、どちらの良さも活かした軽やかな鴨居となりました。



木板張の外壁

防火構造、準耐火構造の認定を受けた天然木サイディングで、準防火地域の延焼のおそれのある部分でも使用できる建材です。そして、施工直後から時間を経た段階でいい雰囲気を出してくれる経年変化の美しさが魅力です。



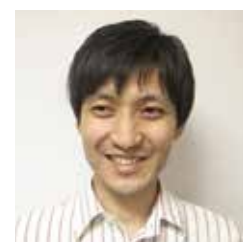
筒井 紀博

一級建築士事務所筒井紀博空間工房
TEL 03-3247-8922
www.ktts.jp



井上 玄

株式会社 GEN INOUE
TEL 045-534-9470
www.architect.bz



佐藤 剛

一級建築士事務所A-SA工房
TEL 0422-44-7255
www.architect-sato.com



石川 直子

石川直子建築設計事務所・
アトリエきんぎょばち
TEL 044-422-7322
homepage3.nifty.com/n-o-arc



前田 敦

一級建築士事務所前田敦計画工房
TEL 03-5937-5853
www.mac-atelier.com



松永 基

MOTOSHI MATSUNAGA

エムズワークス

横浜市中区海岸通4-24 万国橋SOHO 301-B

045-680-5339

<http://www.msw-arch.com/>

LIFE STYLE

建築家がつくる家はオーダーメイド。住む人の生活スタイルに合わせて家をつくることに建築家の仕事の醍醐味がある。家を建てようとするとき、多くの人は部屋数を数え間取りを考える。寝室と子供部屋2つ、書斎も欲しいから4LDK。そして4LDKの家に合わせて暮らそうとする。松永さんは、そうした施主の既存概念を打ち破って、いかに空間を再構築できるかが建築家の仕事の面白さだという。「人には誰でも個性があり、その生活スタイルは十人十色。その人が住む場所も唯一無二。まずその違いを容認することからスタートします」。そして住む人にとって本当に快適な家を見極める。蛇口をひねればお湯が出る、スイッチひとつで気温や湿度が一定に

保たれるなど、機能性を追求することだけでは本当の心地よさは得られない。自然のなかでキャンプをするとき、不便なことや不快なことはたくさんあるが、風や光を体感する気持ちよさがある。「そうした気持ちよさを住まいて再現したい」と松永さん。元々、家はシェルターだった。日本は台風や地震といった自然災害が多い国だが、日本人はそこに木と紙で家をしつらえてきた。自然力を遮断するのではなく自然をコントロールし共存する道を選んできた。日本は極寒の地でもなく砂漠でもない、四季があり水がある。日本を取り巻く自然はじつはやさしい。自然とともにいることを快適と思うのは、やさしく寛容な自然とともに生きることを選んできた日本人のDNAなのかもしれない。

窓・ガラス・テクニカルガラス工事

 株式会社守甲

東京都世田谷区千歳台 2-32-17
TEL 03-3482-1010 / FAX 03-3483-6733
<http://www.moriko.com/>



紀州材

～和歌山県が育んだ良質な木材～

●紀州・木の国

和歌山県は、古くから「紀州・木の国」と呼ばれ、優れた木材を産み出す林業地として位置付けられてきました。江戸時代、紀州藩は山林の保護・育成に力を入れており、既に植林も行われていました。日高川や熊野川などの大きな川の流域で伐採された材木は、筏に組まれて河口に集められ、船で江戸や大阪に送られました。ことに熊野川を利用して新宮に集められる材木は熊野材、新宮材と呼ばれ、全国にその名を知らしめました。新宮領主として入国した水野氏は江戸家老として江戸と深く結びつき、熊野材を盛んに送り出しました。こうして藩の保護を受けて育てられた紀州材、熊野材は次第に、江戸、大阪などでその名を高めていったのです。

●美しさ・強さの秘密

紀州材の産地である紀伊半島の南部は、他地域に比べて高密度に植林をします。一般的にはスギ・ヒノキの植林は1ha当たり3,000本程度ですが、この地域では急峻な斜面に1ha当たり4,000～5,000本の苗木を植えます。それらを下刈、間伐、枝打と職人が細かく手を入れ、30年生になった時には2,000～3,000本に整理し、60～70年生になる頃には700～800本に減らして生長を維持させます。このように温暖多雨な恵まれた自然環境の中で長い年月をかけて育てることで年輪幅が細かく美しい、かつ強度に優れた紀州材へと成長するのです。

●世界遺産の地に育つ紀州材

昨年、登録から10周年を迎えた世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」。このうち熊野信仰の中心である熊野三山への参詣道を「熊野古道」と呼びます。平安時代から江戸時代へと移るにつれ、熊野信仰は貴族から武士、庶民へと広がり、一時は「蟻の熊野詣」と呼ばれるほど多くの人々が熊野古道を通過して熊野を目指しました。

今また多くの人々が、紀州の山林を縫うように続く熊野古道を歩くようになりました。人々の歩みを見つめながらゆっくりと成長した木々はやがて紀州材となり、今度は住まいの一部となって日々の暮らしを静かに見守ります。

【参考文献】

『木に生きる－紀州田辺 木材史－』田辺木材協同組合・2003年

場所／熊野古道大雲取越 撮影／清水一憲

紀州材流通促進協議会は、素材生産や製材、木材加工に関わる企業・団体が構成された組織で、紀州材の認知度向上と販路拡大を図ることを目的に活動しています。毎年春と秋の2回、首都圏の製品市場で開催する紀州材展示会は、30年以上続いている取組で、“役物”と呼ばれる上質な紀州材を求める多くの買い方で賑わいます。紀州材に関することなら、お気軽にお問い合わせください。

TEL 073-424-4351

休：土曜、日曜、祝日、年末年始

紀州材流通促進協議会（和歌山県森林組合連合会内）



小林真人

建築家31会協同組合の代表

株式会社小林真人建築アトリエ
東京都目黒区緑が丘2-18-11
TEL 03-5701-8790
http://www.2u.biglobe.ne.jp/~mahito/
http://mahito3.wix.com/atelier

木を使うということ

建物はきちんと素材感を備えたもので包まれると心身ともに心地よいものです。

心身ともに、というのは、素材の質感や機能は私たちの視覚・触覚に留まらず心理的環境、空気環境、あるいは資産性といったことにまで影響を及ぼすからです。

そういった素材感や機能を備えたものとして、木材は私たち日本人にとって馴染み深く一番の定番材料でしょう。日本古来の木の使い方は角材や板材に製材された無垢材を家の構造体や仕上げ材として用い、さらに細かい加工をして建具や家具などにも利用してきました。石材を主たる材料にしていた西欧の人から『日本の家は木と紙でできている』と表現されるほどに、木材を主たる材料に建物が建てられていたわけです。

私たちに馴染みの深いこの木材も現代では工業的な加工や処理を施すことで、驚くほど多彩で多様な展開を遂げているのをご存知でしょうか？

代表的な例をいくつか挙げてみます。

集成材：無垢材・間伐材の断面寸法の小さなものを製材し接着接合させたもの

合板：薄くスライスした単板を繊維方向がクロスするように重ね、一枚の板に貼り合わせたもの

練付材：木を薄く大根の桂剥きのように削いだり薄くスライスしたものを合板やMDFの基材に貼り付けたもの

OSB：削片状にした広葉樹を積層・プレスして板状にしたもの
パーティクルボード・MDF：木片や木質繊維を樹脂を加え熱圧成形した板材

人工木：木粉を樹脂と固めたもので、変形を防ぎ強度を上げるためにアルミ材を芯材に使用したものなどもある
こういったものを総称して木質建材といいます。

私は常に素材感・質感を大切に考え材料を選定していますが、それは木材・石材などの天然のものだけにあるのではなく、金属やコンクリートなどの工業材もそれぞれ独自の素材感・質感を持っているといえるでしょう。同様にこれは木質建材にもあてはまると思います。木質建材の多くは経済性やエコあるいは無垢材にはない機能・性能を求めてできあがったものなので、まずはその点を評価すべきなのですが、同時に素材感・質感という視点でも天然のものにはない独特で魅力的なものが多く存在していると思います。

こういった視点も含めて素材を考えると、天然材から加工材までその選択肢はおおいに広がるでしょう。それらを上手に選定し組み合わせることで、互いの質感・素材感を際立たせ引き立て合い、より多様で心地よい空間づくりに役立てられるのではないのでしょうか。

（小林真人）



建築家31会協同組合

建築家31会協同組合は、建築の設計と監理を専業としている建築家の集まりです。一級建築士の資格をもつ組合員が自立・独立した立場で、適切な建築設計と監理を行うことによって、建主の健康や財産の保護、そして豊かな社会環境の実現に努めています。

建築家の職能に対する認識は未だに不十分なので、志を同じくする建築家が集まって行動を束ね合わせることで、建築家の役割を広く深く社会に認識していただけるよう模型展や相談会などの活動を通して、Face to Faceの繋がりを大切に活動しています。

UNION OF 31 ARCHITECTS



www.kenchikuka31.net/



from Editors

編集後記

ISSUE 31 Architects vol.4 [wood]、いかがでしたか。最近では本当の温もりを求めて、床材に無垢のフローリングを望まれる方が増えています。今まで敬遠されていた節や色むらを楽しむ向きもあり、木本来の姿が見直されていることを感じます。一方で呼吸する木材は、環境によって変化し、反りやむくりを生じます。木材を魅せる設計にはこれと付き合う手間と知識が欠かせません。この号では、私が日頃木造住宅の設計者として注目している松澤静夫さんと、常にエレガントなインテリアを提案されている中村雅子さんにご登場頂きました。また、スタイルのある住宅を手掛けられている松永基さんは、人が生活していく空間をありのまま提示されているように思え、この号を通してそれぞれの建築家が使用する材料やライフスタイルへの向き合い方を感じて頂ければ幸いです。

（編集長 高野洋平）

発行元 建築家31会協同組合 出版委員会
編集長 高野洋平
編集 田邊恵一 松永基 佐藤剛 南部健太郎 標由理 谷口裕子
表紙写真 南部健太郎
写真協力 清水一憲
協賛 チャンネルオリジナル株式会社 檜創建株式会社 株式会社 守甲 和歌山県

建築家31会協同組合 出版委員会
http://kenchikuka31.net/
横浜市中区海岸通4-24 万国橋SOKO 301-b TEL 045-680-5339

TIME SPACE Architecture



旧作への想い 市村宏文

公園前の家

2000年に竣工した独立後第一作目の住宅。

施主は地元の友人、近所で幼い頃から一緒に遊び夢を語った仲間です。計画地は小学生の時、毎日のように野球をしていた大きな公園の前。

要望は「家が欲しい」それだけでした。このあまりにも素っ気ない言葉に一体何を望んでいるのか見当が付きません。悩んだ結果、とにかく彼らを観察しよう！と決め、打ち合わせは泊まり込みで行い友人夫婦をずっと見ていました。注意深く見続けると、面白い事に当人の言葉とは別の好みや行動が見えてきます。その気がついた事を細かく設計に反映させていき全体プランが完成しました。

これは、言葉での表現がうまくできない、その代わりに素直に自分達を見せてくれたので可能になった事でした。

この時の経験はその後の住宅設計において重要なポイントとなりました。施主の言葉以上に行動を細かく観察・分析して、建築する土地の風土、歴史(街の成り立ち)も調べ、そうすると生活の地域性も見えてきます。そのために打ち合わせは出来るだけ「施主の住まい」にする様にしています。

住宅は「この施主で、この場所だからこそ出来た」唯一無二のものであると思っています。

市村宏文 株式会社エルスト
東京都中央区八丁堀4-14-7 ウィンド八丁堀ビル703
tel: 050-5539-9699
fax: 050-3737-5900
Facebook: <http://facebook.com/erst.ichimura>